

ラジオ放送開始100年(2025年3月)

ーNHK名古屋放送局のあゆみー

日本最初のラジオ放送は1925(大正14)年3月、東京高等工芸学校の図書室を改造したスタジオと東京市から借用した送信機で仮放送を開始した。また、大阪放送局は三越呉服店(後の三越百貨店)屋上建屋から同年6月に仮放送を開始した。

愛知のラジオ放送は1925年7月15日、名古屋城南外堀に新築した社団法人名古屋放送局(後にNHK名古屋放送局)から仮放送無しで本放送を開始した。名古屋放送局が迅速に正式開局できたのは神野金之助初代理事長の優れたリーダーシップと名古屋財界の資金援助のおかげである。



〔写真1〕 南外堀名古屋放送局 出典：HP：Time Travel in Nagoya

■南外堀送信所(1925～1929)

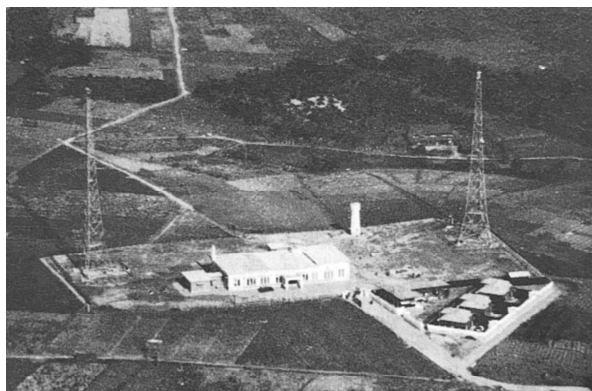
最初の名古屋放送局は名古屋城内の衛生監獄跡地に、事務所・スタジオ棟、送信機棟、アンテナ鉄塔が新築された。送信機は英マルコニー社製の「Q型1kW」を使用した。放送開始時の聴取許可証発行数は約3,200件であった。

送信所名	南外堀(名古屋城)	桶狭間(緑区)	鍋田(弥富市)
運用期間	1925～1929年	1929～1983	1983～現在
第1放送 送信電力(周波数)	1kW (833→810kHz)	10kW (810→730kHz)	50kW (730→729kHz)
第2放送 送信電力(周波数)	無し -	10kW (1175→910kHz)	10kW (909kHz)
送信アンテナ 形式 塔間隔L、高さH m	水平T型 L64 H40	水平T型 L120 H55	垂直柱型 H170

〔表1〕 名古屋放送局の変遷

■桶狭間送信所 (1929～1983)

日本放送協会は1927年、放送エリア拡充のために東京・大阪は10kWに増力し、名古屋は1kWのままで浜松局を3kWにする方針を出した。これに名古屋放送局は10kW化の必要性を強く主張して認められた。南外堀は標高が低くて電波伝搬効率が悪いのと、近隣の民家に高出力化による電波障害が心配されたので市郊外で標高が高い桶狭間に送信所を建設した。



〔写真2〕 桶狭間送信所 出典：『名古屋放送局60年小史』

■鍋田送信所 (1983～現在)

高度成長期に入ると、人口増による都市雑音の増加でラジオが聞きにくくなったため送信電力50kWの送信所を新設することになり、設置場所は周辺に民家がない鍋田干拓地が選ばれた。高さ170mの円管柱垂直アンテナは電波の放射パターンが水平で均一なため設置場所が平地でも広範囲かつ遠距離まで良好な電波強度が得られた。

鍋田送信所は南海トラフ地震による津波で放送機能を喪失する可能性が大きい、そこで予備放送局を2024年に刈谷市小垣江地区に設置する計画があったが未着工のようである。

(渡辺治男)



〔写真3〕 鍋田送信所 (2018年筆者撮影)